

霧が丘六丁目 まちづくり推進ニュース

霧が丘六丁目まちづくり推進会

地域まちづくり組織（横浜市 認定番号 S16001）



自分たちではじめよう。
もっと住みやすいまちづくり。



霧が丘六丁目まちづくり推進ニュース Vol.16



まちづくりトークセッションも開催！ 霧が丘六丁目まちづくり推進会総会報告



神奈川県立霧が丘高校の教室をお借りして開催した総会の様子

9月15日、霧が丘六丁目まちづくり推進会の総会が、霧が丘高校を会場に開催されました。

今回は旧霧が丘第一小学校跡地を利用する教育機関の公募結果が発表された後の初めての総会となりました。横浜市財政局管財部資産経営課の^{あかねがくぼ}茜ヶ久保修担当係長他が来賓として参加し、総会の冒頭で学校法人国際学園（横浜市青葉区さつきが丘8番80）が選定についての説明を行いました。同学園の採択の理由は、「不登校児童生徒を受け入れる中学校を運営するという提案です。地域貢献への取組は、校舎の一部を地域教育交流スペースとして活用し、土日祝日に体育館・グラウンドを地域開放するというものです。運営方法は、学校と地域の連絡会を設置して、地域のニーズも捉えながら協議・調整を行うとしています。その他、地域での防災計画への取組として、避難場所等としての協力や、防災備蓄庫の整備、防災訓練の実施等の提案があり、高く評価できる内容でした」（横浜市建築局 HP より）とのことでした。

総会の第2部では、霧が丘六丁目地区の「まちづくりプラン実現に向けたトークセッション」が開催されました。トークセッションには、霧が丘六丁目まちづくりプランを応援する立場として、緑区役所総務部区政推進課の高西悠子さん（まちづくり調整担当係長）、横浜市都市整備局谷田広紀さん（地域まちづくり課担当係長）も参加しました。高西さんは「地域それぞれ課題は異なる。また、同じ課題でも解決のアプローチは違う。住民主体で話し合いを進めていくことが大切」と話し、谷田さんは、「最近では、空き家や住民の自宅の一部を活用して、住民が集まることのできる場を作る取り組みなども増えてきている」と、具体例を説明しました。

また、地域に関わる立場として、霧が丘高校校長の石倉隆之さん、東京工業大学准教授の那須聖さんも話し合いに加わりました。石倉校長は、「学校が地域振興の中核的な役割を担えたら。生徒も地域社会に深く関わることで、大きな学びになる」と話しました。参加した地域住民からも課題や理想像に関する多数の意見が出て、トークセッションは大いに盛り上がりました。

当推進会は、2016年に住民主体で横浜市地域まちづくり推進条例に基づいたプランを策定。まちづくりの目標として、「周辺地域とのつながりを大切にしながら、安全の確保と利便性の向上による住宅地の再生を行い、多世代が快適に暮らせるまちをつくる」ことを掲げています。歩行者空間の整備、住民の交流やその拠点づくり、交通アクセスの充実と利便性の向上などを、進出する学校法人の協力も得ながら霧が丘六丁目まちづくりプランを実現していきたいと考えています。



今年度は 25軒のお宅から緑化の取り組みを開始！

緑のまちづくり事業の進捗状況をご報告します

昨年度から始まった霧が丘六丁目「みどりのまちづくり」ですが、昨年は制度の都合により数軒の家をモデルとしてレモンその他の花木を植栽をして終了しました。

今年度は 25 軒のお宅から植栽や庭作りのお申し込みをいただいています。霧が丘六丁目まちづくり推進会が委託している菅先生からの設計図(案)が先日出来上がって、現在お申込みいただいた各ご家庭を担当が回って意向確認をしているところです。11 月くらいから植栽ができるように動いていますので、どうぞご協力をお願いします。

また今年度は霧が丘高等学校さんにも、六丁目に面した土手部分にレモンの植栽をして、何か一緒にできないかと協力を呼びかけています。楽しみですね！

霧が丘六丁目まちづくり推進会・みどりアップ部会は「観て・食べて・祭りでみどりを体感！ みどりで交流！」をテーマに、レモンの街づくりに取り組んでいます。そこで今回は、レモンの効能をご紹介します。

鳥取大学医学部教授の浦上克哉先生によると、レモンのアロマオイルにはローズマリー、ラベンダー、オレンジのアロマオイルと組み合わせて使うことにより認知症予防の効果があるとの研究成果が出ているそうです。霧が丘六丁目のできたレモンを使って、そんなアロマオイルが



できたら楽しいと思いませんか？ 瀬戸内レモンならぬ霧が丘六丁目レモンでお菓子もできますね。

レモンのまちづくりにご興味がある方は鉢植えでの参加もできますので、これからでもお声掛けください。ご説明に伺います！！

県立霧が丘高校の校長先生から、嬉しいメッセージを頂戴しました★



P T A から P T C A へ ～地域とともにある学校をめざして～

今年度より霧が丘高校に着任いたしました校長の石倉と申します。霧が丘六丁目の皆様方には、日頃より、本校の教育活動に対し、多大なご理解とご協力をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。おかげさまで約 1,200 名の生徒は、自然豊かな霧が丘の落ち着いた環境の中で、日々の学習活動に取り組み、着実に成長しております。

さて、先日本校にて開催されました「まちづくりトークセッション」に参加させていただきましたが、多世代が快適に暮らせる魅力あるまちづくりをめざし、新たな取り組みにチャレンジする皆様の熱気とパワーを実感するとともに、常に変革と創造の精神を持つことの大切さを改めて感じたところです。

時代の流れとともに学校における教育事情は急速に変化しており、学校の在り方や学校が求められるものも着実に変わってきています。最近では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、コミュニティスクール(学校運営協議会)の設置が義務づけられました。コミュニティスクールとは、一言でいうと、学校・保護者・地域が力を合わせて学校運営に取り組む仕組みのことであり、これからの時代は「P T A から P T C A へ」、つまり、P (Parents: 保護者)、T (Teacher: 教職員)、C (Community: 地域社会) でタッグを組み、学校を地域の拠点としたより良い地域社会を築いていくことが求められているのです。本校においても、今年度より新たに学校運営協議会を設置し、「地域とともにある学校」への転換をめざし活動を始めたところです。

今後もよりいっそう地域との連携を深めながら、多世代が快適に暮らせる活気と魅力あるまちづくりの構築に向け、微力ながらその役割を果たしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくご厚意申し上げます。

神奈川県立霧が丘高等学校 校長 石倉隆之

霧が丘六丁目まちづくり推進ニュース 発行：霧が丘六丁目まちづくり推進会
Vol.16[2018年11月号] 問合せ先：090-7945-0644 (佐東)
<https://kirigaoka6choume.jimdo.com/>



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

11 住み続けられる
まちづくりを



国連持続可能な開発目標 SDGs 達成に向け取り組みます。